

超高齢社会を考える



徳島市環境保全課

石山 敬造

Ishiyama Keizo

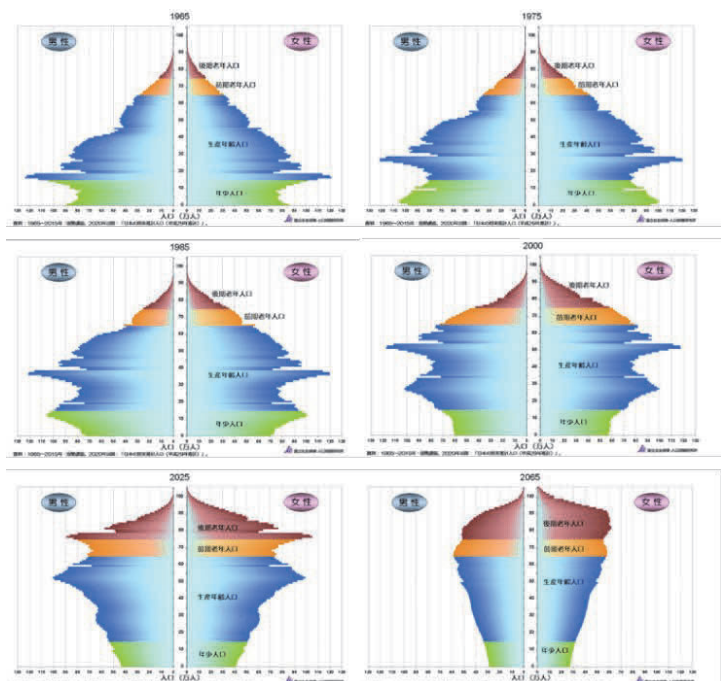
(環境部門 環境保全計画)

1. はじめに

私は1975年（昭和50年）に生まれ、今年で50歳の節目を迎えます。昔で言えば定年退職の60歳まであと10年ですが、近年の労働力不足や年金の支給が遅くなっていることから、金銭的に十分な余裕のある方を除いては、その年齢でリタイアするということは難しくなっています。私も何歳までどこでどのように働いていくか、将来のことはわかりませんが、おかげさまで大きな病気やケガをせず、元気に働いているのは、たいへんありがたいことだと感謝しています。

2. 日本の高齢化の現状について

右下のグラフは、「国立社会保障・人口問題研究所」のホームページに掲載されている、日本の人口ピラミッドです。一番古いものが1965年、一番将来のものが2065年です。皆さんご承知のとおり、時代が進むにつれて若年人口が減り、一方団塊の世代などが年を取るにつれて高齢者が増え、形状が大きく変わっています。1965年から1975年は末広りのピラミッド型であったものが、1985年から2000年は（中間部分が飛び出しているところはあるものの）下の方が寸胴のような釣り鐘型、2025年現在は、さらに若年人口が減って下部がえぐれたつぼ型になり、2065年にはソフトクリームみたいになっています。ちなみに2025年現在、私と同じ50歳の男性の人数は約90万人、2065年には30～40万人、生存率はざっと3割から4割、結構たくさん生きているものだなと思いました。とはいっても、これは自分で自分のことができて健康に生きている人の数ではありません。年下の医療福祉関係者、また家族などに、申し訳なくも大なり小なりお世話になり、また負担やご迷惑をおかけして生きながらえている人が多く含まれているはずです。



左上から順に 1965, 1975, 1985, 2000, 2025, 2065 出典：国立
社会保障・人口問題研究所ホームページ (<https://www.ipss.go.jp/>)

3. 老害と呼ばれ始めて

嫌な響きではありますが、「老害」という言葉はいつから使われ広まり始めたのでしょうか。詳しい時期は分からないのですが、体感的にはこの20年くらいの間のような気がします。おそらく「公害」という言葉にかけて誰かが言い始めて広まったのでしょうか。うまく言うなあと思う反面、年を取った方を「害」という迷惑な者という排除した言い方に、世代間の断絶という怖さや若い人の年寄りに対するいらだちを感じます。この「老害」という言葉を2つの国語辞典で調べると以下のように書かれています。

（「老人による害」の意）硬直した考え方の高齢者が影響力を持ち続け、組織の活力が失われること
（出典：広辞苑 第7版）

企業や政治の指導者層の高齢化が進み、円滑な世代交代が行われず、組織の若返りがはばまれる状態
（出典：大辞林 第4版）

調べて初めて気が付いたのですが、いずれの辞典にも、「老害」とはその人物自体のことではなく、その人物による社会的な影響の意味で書かれていました。確かに、「公害」も環境の悪化という影響のことを指しており、その原因の排出源である工場などのことを「公害」とは言いません。

また、「老害」という言葉をA Iで検索すると以下のように出ました。

「老害」とは、組織や社会に悪影響を及ぼす、高齢者の頑固な態度や古い価値観を指す言葉です。具体的には、変化を受け入れず自分の考えを押し付けたり、若い世代を一方的に否定したりする行動がこれに該当します。「昔はこうだった」と過去の経験に固執し、新しい意見や価値観を受け入れない点が特徴です。

こちらでは「老害」は現在一般的に使われているように、人物のことを指しています。もう少し補足すると、「新しい価値観・技術・知識を受け入れず、自己研鑽をしない割に、若い者に偉そうに振る舞う年配者」です。周りにそのような人はいると心当たりと思う方もいるかもしれません。また気づかないだけで自分もそうなっているかもしれません。日本技術士会の「技術士倫理綱領」には、「継続研鑽と人材育成」が掲げられていることから、技術士である皆様はそのようなことはないと思っております。なお、この原稿では、今後「老害」を人物を指す意味で使うこととします。

先の人口ピラミッドでもわかるように、高齢者が少なく、若い人が多い形では、少ない指導者が多くの部下を上意下達方式で指導するという形態が、職場を含む多くの組織で成り立っていました。しかし、若年層が減っているのに、指導者クラスの間人ばかりが多くなって、「あれしろ、これしろ、あれするな、これするな」と昔ながらのやり方ですと、数少ない若い人は悲鳴を上げます。そういったことへの反発が「老害」という言葉に集約されているのではないかと思います。

昔は衛生状態が悪くなく、寿命が短かったので、「元気で長生き」ということに価値がありました。私が子供のころは「お年寄りを大事にしよう。」とよく言われましたが、昨今はそのような話をほとんど聞きません。どこを見回しても年寄りだらけですから。それどころかむしろ「年寄りは迷惑だ、邪魔者だ。」という風潮のように思われます。

地方では生活に不可欠な自動車、紅葉マークを付けてゆっくりと運転していると、あおられるかもしれません。数か月に1度は高齢者がアクセルとブレーキの踏み間違えで店舗に突っ込んだ事故のニュースを見るような気がします。そうするとヤフコメでは「また老人が事故を起こした」「高齢者から免

許を取り上げろ」の大合唱です。もちろんこれは世の中の意見の代表ではありませんが、一定数はそのような意見があるようです。

実は私も昔はそうのように思っていた人間の一人です。若くて体が元気で、なんでも自分の力で自由にできていた時は、高齢者を慮ることはありませんでした。しかし現在の年齢になるにつれ、自身の両親を含む身内が年を取り、何をするにも不自由になるのを見るにつけ、また自身も頭頂部の髪の密度が低くなり、近くのものが見えにくくなるにつれ、「年を取るということはこういうことで、誰しも年を取るのだな。」と実感しています。「子ども叱るな 来た道じゃ 年寄り笑うな 行く道じゃ」とは、本当によく言ったものです。

その私の両親の話ですが、おかげさまで今も健在で、施設にも入らず、自宅で2人で生活をしています。その様子を時々見に行くのですが、これがなかなかのストレスです。父は生まれつき目が悪く、母は年を取って耳が悪くなり、困りごともあり、またコミュニケーションに支障があります。訪ねた時いろいろ頼まれるのでその世話をしたり、相談されたりするので教えてあげたりしますが、理解力や記憶力が悪くなっているのも、何度も同じことを繰り返し聞いてきます。それでも、一方的に私の言うことに従ってくればまだいいのですが、自我と自信があるばかりに、言うことを聞いてくれないのがやっかいです。

最近あったことでは、家に固定電話があったのですが、その契約を止める止めないでひと悶着ありました。二人とも携帯電話を所有しているので、固定電話はほぼ使っておらず、たまにかかってくるものと言えばセールスか調査か詐欺のいずれかで、ろくな用はありません。一度詐欺の電話がかかってきて、幸いにもひっきりなしではなかったのですが、父がうっかり個人情報伝えてしまったので、これはいけないと思い、被害にあう前に無理矢理に契約を解除させました。父は最後まで抵抗しましたが、その理由は以下のようなものです。

- ・「今度は怪しい電話があっても引っかけられないから大丈夫」→(そういう人が一番引っ掛かります)
- ・「親戚や友人が電話してくるかもしれない」→(みんな携帯電話の番号を知っていて、固定電話にかけてくる人など、ほとんどいません)
- ・「固定電話からかける方が安い」→(めったにかけない癖に、維持費に月に2千円要り、回数やプランにもよりますが、携帯でかけるほうが結局安いです)
- ・「固定電話の権利は高いお金を出して買ったので、もったいないし、番号にも思い入れがある」→(電話の権利は今やただの紙切れです)

要するに全部ただの思い込みで、合理的な理由は全くありません。それを逐一説明しても、どうしても理解してくれない、新しい情報を入れて、それをもとに判断するということができない、それは仕方ないことなのかもしれません。「老いては子に従え」と言いますが、実の子がいうことぐらい信じてもいいのにとiraだちを感じます。

ただ難しいのは、突然かかってきた実の子を名乗る電話で「おれ、おれ、たかし、仕事に失敗してお金が必要だからすぐに送ってくれ。」と言われて真に受けておくと、大金があつという間になくなってしまいます。信じるものと信じてはいけないものを分別する判断力やバランスが大事なのでしょうか、とてもたいへんな時代になりました。

4. 尊敬されるお年寄り

ここまでお年寄りの悪い話ばかりしてしまったので、私が尊敬する素晴らしい先輩の話をします。

私が所属する環境ボランティアの代表だった人で、現役時代は小学校の先生をしており、校長先生ま

で務めた方がいます。その方は、定年退職後、環境に関するボランティアを始めて、私もそれが縁でお知り合いになりました。その方とは今でも一緒に里山の保全活動をしています。

会の代表だった時は、リーダーとして会を取りまとめ、また外部との交渉なども積極的に行っていました。そして何より、自らが進んで現場で活動し、会員の手本となるような方です。

とても印象に残っているのが、定期的に行っている里山の整備活動の時ですが、一番高齢であるにもかかわらず、一番元気で休まず作業をされます。私などは楽しくて簡単な作業しかしないのですが、その方は雑草取りのような一番地味で大変な作業を自主的にされています。「あれ、姿が見えないな？」と思ったら、誰にも言わずに山や畑に入って作業をしており、そしてそのことを決してひけらかさない、謙虚な姿勢でした。このように人に気づかれないところで黙ってしている姿が印象的でした。

テレビであるコメンテーターの方が言っていて面白いと思ったことがあるのですが。「老害という言葉はよくない、これからは尊ばれるようなお年寄りという意味で『老尊（ろうそん）』と言い換えたらいかがですか。」という話でした。これは半分冗談なのでしょうが、いい言葉なので広まったらいいなと思ったのですが、現在ネットで検索してもこのような言葉は定着していません。

5. まとめ

老害と呼ばれないようにするためには、次のことが大事だと思います。

- ・ 自分の経験や価値観を一方的に押し付けず、新しい考え方や若い世代の意見を尊重することが重要
- ・ 常に学び続ける謙虚な姿勢を持ち、周りの意見に耳を傾けることで、年齢に関係なくポジティブな関係を築く

まるで私が言ったかのように書きましたが、実はこれはA Iに回答してもらいました。いずれも、そのとおりだと納得できる内容です。

A Iが普及すると、合理的・効率的に仕事をすることができ、本当に便利になります。一方、これだけA Iがなんでも人間の代わりに仕事をしてしまうと、人間とは何だろうかと思ってしまいます。これからもっと時代が進化して、人間の代わりに様々な機械が役割をこなすようになっていくでしょう。少し哲学的になるかもしれませんが、そんな時代に人間に何ができるか、この地球上に人間は必要なのか。その大きな問いに私のような浅い知識の人間があえて答えるとすれば、結局は人間がやっているということが一番大切であり、人を助けることができるのは人でしかないと思っています。

最後になりましたが、私が一番大事にしている言葉を記載して、終わりにしたいと思います。当然私が思いついたのではなく、ある団体の昔の偉い先生が述べたものです。グーグル先生に聞いたら出典はわかると思いますので、興味があれば調べてみてください。私もこの言葉を守って「老尊」と呼ばれるような高齢者になれるよう努力します。ありがとうございました。

五つの祈り

- 一、人を軽くみない
 - 一、人に恩をきせない
 - 一、人を利用しない
 - 一、人をあてにしない
 - 一、人を責めない
- 私にならせてください。